

**「福祉サービス第三者評価を準用した調査」結果報告書(平成20年度)**  
**(東京都民間社会福祉施設サービス推進費補助)**

社会福祉法人 ドリームヴィ  
 工房ヴィ 施設長 嶋 大蔵 殿

郵便番号 162-0825

所在地 東京都新宿区神楽坂2-4 結城ビル4F

評価機関名 特定非営利活動法人 NPO人材開発機構

認証評価機関番号 機構 02 - 005

電話番号 03-5206-7831

代表者氏名 理事長 水谷 正夫

以下のとおり調査を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	担当分野	修了者番号
	① 福祉・経営	H0402001
	② 経営	H0202080
	③ 福祉	H0601034
	④	
	⑤	
	⑥	
福祉サービス種別	就労移行支援・就労継続支援B型 (旧体系 知的障害者通所授産施設)	
調査対象事業所名称	工房ヴィ	
事業所連絡先	郵便番号	114-0034
	所在地	東京都北区上十条2-1-12
	電話番号	03-3906-7753
事業所代表者氏名	施設長 嶋 大蔵	
契約日	2008年11月28日	
利用者調査票配布日(実施日)	2009年1月28日	
利用者調査結果報告日	2009年2月3日	
自己評価の調査票配布日	2008年11月28日	
自己評価結果報告日	2009年2月3日	
訪問調査日	2009年2月6日	
調査結果合議日	2009年2月20日	
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	平成15年10月設立の知的障害者通所授産施設「工房ヴィ」は、パン・焼き菓子製造及び喫茶部門等の事業を行っており、更なる支援の可能性を求めて平成18年10月に障害者自立支援法に基づく「就労移行支援」と「就労継続支援B型」事業に移行した。主力のパン製造部門は5年の実績を積み重ねている。それぞれの製造工程で作業を行っているため、「利用者調査」に際し事業所で順番等を調整して、「聞き取り方式」で利用者と評価者が1対1の対面で実施した。なお家族にアンケート調査を依頼し12名の方から回答を得て補足資料とした。	

調査対象

利用者現員20名「男性10名、女10名」年齢は、男性33.4歳、女性32.5歳、平均年齢32.9歳の利用者全員を対象するも、1日の調査日程で行う当日の欠勤者は調査の対象外となることもやむを得ないこととした。

調査方法

利用者の授産活動の妨げにならないよう1人に要する時間は約30分を目安に、「聞き取り方式」で行った。また、昼食も共に摂り意思疎通に努めた。聞き取りは、1対1の対面で行い利用者の理解とプライバシーに配慮して行った。

利用者総数

20

共通評価項目による調査対象者数  
 共通評価項目による調査の有効回答者数  
 利用者総数に対する回答者割合(%)

アンケート	聞き取り	計
0	17	17
0	17	17
0.0	85.0	85.0

利用者調査全体のコメント

平成15年10月設立以来、主力のパン製造・外販及び喫茶を中心に事業を展開している。施設では更なる支援の可能性を求めて、平成18年10月から障害者自立支援法に基づく「就労移行支援」と「就労継続支援B型」事業に移行している。20名の利用者全員が公共交通機関または徒歩で通っている。パン製造等に切れ目ができないように、早番(8時30分～14時30分)と遅番(10時～16時)の2組に分けている。作業に支障を及ぼさないように施設側で順番等の割り振りをして「聞き取り方式」で1人凡そ30分を目安にして行った。その際、調査票に自記することも勧めるなどして利用者の主体性の尊重に努めた。聞き取りからは問1「仕事等日常の活動」は「やりがいがある」として全員が「はい」と回答し、問2「給料」、問4「設備の安全」、問6「気持ちは大切に・・・」は16名(9割超)の方が「はい」と回答している。また、「はい」、「いいえ」、「無回答」共に5名が回答した問13「第三者委員・・・」の項目を除き、ほぼ全ての設問で「はい」の回答が8割超となっている。なお、総合的満足度は、利用者は9割の方が、家族は20名中、回答を寄せた12名全員が「満足」と回答している。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
コメント				
1. 仕事など日常の活動はやりがいがあるか	17	0	0	0
20名の利用者のなかで、調査当日に欠席した3名を除いた17名全員が、仕事はやりがいがあるとして「はい」と回答している。コメントにも、「パンをこねたりのぼしたりしている」、「ここに入った時からパン作りです、袋にも入れます」、「パン作りが上手になった」、「8時半からパン作り」、「10時からの遅番、仕事は楽しい」、「11時20分から外販」、「喫茶の仕事」、「鉄板の掃除」などの声が聞かれるように、パン、焼き菓子製造、喫茶、学校等への外販など利用者の特性に応じた作業を行っており、家族も9割超の方が満足としている。				
2. 工賃・給料の支払いのしくみは、わかりやすく説明されているか	16	1	0	0
説明はしてくれるなどとして、「どちらともいえない」を選んだ1名の方以外の16名の方が「はい」と回答している。コメントには、「今月幾らぐらいかわかります」、「明細を毎月もらっている」、「説明はあります」などの声や、「給料は楽しみ、けれどももっと欲しい」、「給料はたくさんもらっている」、「銀行にお金が入る」、「給料は貯めている」といったように、毎月の給料の金額に関する話が多く聞かれた。また、施設では工賃規定で説明もしているが、家族からは、支払い方法や金額に関して凡そ4割の方が「わからない」と回答している。				

3. 必要なとき職員からの相談・支援は十分か	15	2	0	0
「どちらともいえない」を選んだ2名の方以外の15名の方が「はい」と回答している。コメントには、「お仕事の段取りの相談をします、説明してくれます」、「みんな相談にのってくれる」、「何でも相談できる」、「相談したら、いいアドバイスをしてくれる」、「一番に職員に相談する」などの話や、「仕事の報告はします、相談しなくても大丈夫」、「あまり相談しない」、「一番はお姉さん、お母さんに話す、職員にも話す」などといった話も聞かれた。家族からは、体調変化等の際の連絡に関して8割超の方が適切に対応していると回答している。				
4. 施設の設備は安心して使えるか	16	0	1	0
1名の「いいえ」との回答があったものの、16名(9割超)が「はい」と回答しており、「オープン職員がやる、危なくありません」、「ヤケドとか怪我はありません」、「工房の中は大丈夫」、「安心して使える」、「仕事場はやりにくいことはない」などのコメントの他に、「作業場が狭い、少し動きにくい、その他は良いです」という声も聞かれた。また、「ロッカーの鍵を自分で管理している」、「歩きのため自動車に気をつけている」などと話す方もあった。家族は施設の安全管理の配慮について解答した12名全員が配慮していると回答としている。				
5. サービス提供にあたって、利用者のプライバシーは守られているか	14	1	0	2
この設問は具体性のない抽象的内容のため、言葉を言い替えるなどしてみたが、関心を寄せない方もみられ、コメントも、「秘密ごとはありません」、「職員との秘密は守られている」、「守られている」、「できている」などであった。家族へのアンケートでプライバシーの保護等を理解して配慮した行動が取れるよう指導していると思うかとの間に、11名(9割超)の方が「指導していると思う」と回答している。				
6. 利用者の気持ちは尊重されているか	16	1	0	0
これも具体性のない抽象的内容のため、言い替えるなどして、16名(9割超)が「はい」と回答しており、「わかりません」、「職員は親切ですが、思っているかどうかわかりません」との声も聞かれたが、「仕事中はあまりしゃべらないけど、仲良くしてます」、「お友達と仲良しです」など、仲良しとの言葉が多く聞かれた。また、「病気で休んだ時など職員さんの方から体のことを気遣っていただける」などとのコメントがあった。				
7. 職員の対応は丁寧か	13	4	0	0
「はい」と回答した方13名(7割超)、「どちらともいえない」と回答した方が4名(2割超)を数えており、「職員も親切に接してくれます」、「丁寧に仕事の説明をしてくれます」、「乱暴な言葉は使わない」、「さん付けで呼ばれている」、「いい人でやさしくしてくれる」、「安心できる」などのコメントがあった。一方で「〇〇君と呼ばれる」、「〇〇ちゃんとか呼ばれる」、「ニックネームで呼ばれる」などと語る利用者もあった。家族へのアンケートでは、職員の言葉遣いや態度で気になることは「ない」とした方が、計数的には9割を超えている。				
8. 個別の目標や計画を作成する際に、利用者の状況や要望をきかれているか	15	1	0	1
「できる仕事を広げたいと話をしている」、「仕事の目標を持っている」、「できる仕事の内容を増やしたい」、「希望を聞いてくれた」、「毎日ここに来ること」、「ここでいつまでもパン作りをすることです」、「今の仕事を50か60才までやりたい、1日でも早くパン作りが一人前にできるように覚えたいです」など、真剣な姿がみられた。また家族からは「毎年必ず話し合っている」、「よく理解してもらい安心」などとして9名(7割超)の方が「はい」と回答しているが、支援計画に満足かの間には「はい」の回答が5割となっている。				
9. 【個別の目標や計画について説明を受けた方に】 個別の目標や計画についての説明はわかりやすかったか	12	2	0	0
説明を受けたとした14名のなかで、「とてもわかりやすかった」として、12名の方が「はい」を選んでいる。利用者から聞かれたコメントにも、「難しかった」との声もあったが、「みんなと仲良くすること」、「目標は難しいけど一歩ずつ進みましょう」などといった言葉が聞かれるように、支援計画について職員と利用者がよく話し合いをしている様子がうかがえる。				

10. 【過去1年以内に利用を開始し、利用前の説明を受けた方に】 サービス内容や利用方法の説明はわかりやすかったか	2	0	0	0
少数につき、コメント等の記載は省略。				
11. 不満や要望を事業所や職員に言いやすいか	14	1	2	0
「はい」と回答した方が14名(8割超)であるも、「いいえ」を選んだ方が2名(1割超)、利用者からは「気軽に話ができる」、「何でもOKだけど、プライベートは言えない」、「ゆっくり話を聞いてくれる、遠慮なく相談します」、「遠慮しないけれど、あまり話さない」、「やさしいです、何でも話せます」などの言葉が聞かれた。一方で、「一番相談に乗ってくれる職員は〇〇さん、だけと言いつらい職員さんがいる」、「相談とかは家族に一番に相談する」などの声も聞かれた。なお凡そ7割(8名)の家族が要望等を言いやすい状況と回答している。				
12. 利用者の不満や要望はきちんと対応されているか	14	3	0	0
「はい」と回答した方が14名(8割超)、「どちらともいえない」を選んだ方が3名(2割弱)、利用者からは、「聞いてくれるし、ちゃんとやってくれる」、「聞いてくれます、何も困ることはありません」、「何でも聞いてくれる、忙しいから後でなどとは言いません」、「よいアドバイスをしてくれる」などの話が聞かれるように、きちんと対応している様子がうかがわれる。なお、8割超(10名)の家族が要望等に対する対応は適切であると回答している。				
13. 第三者委員など外部の苦情窓口にも相談できることを知っているか	5	2	5	5
「はい」、「いいえ」、「無回答」共に5名(凡そ3割)、「どちらともいえない」も2名(凡そ1割)とさまざまで、「朝礼の時知らされる、相談したことはないが知っている」、「貼紙がある」、「職員と家族に相談」、「聞いたことありません」など、もさまざまなコメントがあった。なお家族へのアンケートで、第三者委員等に相談できることの説明を受けたことがあるかに対する回答では、「ある」が1名、「ない」が8名、「わからない」が3名であった。施設では重要事項説明書に苦情・相談窓口(施設及び第三者委員・行政窓口等)を紹介している。				

I 組織マネジメント項目 (カテゴリ1～5、7、8)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	
	評価項目1 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している <span style="float: right;">評点( <b>A</b> )</span>	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど) <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
	【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <span style="float: right;">評点( <b>A</b> )</span>	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
	【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	

評価項目3

重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している

評点( A )

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている	○非該当
◎あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
◎あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当
【A+の取り組み】		○あり ◎なし

カテゴリー1の講評

「生まれ育った家の近くに、働く場・生活する場を作る」ことを目指した法人の経営理念

特別支援学校を卒業した方たちが、地域で働き、生きいきと活躍できることを目標としている、社会福祉法人ドリームヴィは、「私たちは、地域社会に開かれた福祉の発信地として、障害のある人もない人も、共に生きていく社会の創造を目指します。一つ、障害のある人の人格と個性を尊重します。一つ、障害のある人が安心して豊かな地域社会を営めるよう支援します。一つ、障害のある人の喜びや悲しみを共感できる職員であることに努めます」を経営理念として、「生まれ育った家の近くに、働く場・生活する場を作る」ことを目指して事業を展開している。

就労を目指した日中活動と居住支援の連鎖で生きいきと活躍できる社会の実現に向けて

経営理念を実践に移すための施策として、平成15年にパンや焼き菓子製造等をメインにした通所授産施設「工房ヴィ」を設立した。更に利用者支援の可能性を求めて、平成18年に就労移行支援事業と就労継続支援B型事業に移行し、工房を拠点として現在20名の利用者が働いている。なお、法人傘下の地域に点在するグループホーム及びケアホーム、行政からの委託としての「就労支援事業」、工房ヴィの主力となっている製パン会社からの委託による焼成業務などを連鎖して運営することによって、利用者が社会で活躍できる場となることを目指している。

職員及び利用者・家族へ経営理念の浸透を図るための周知徹底に向けての取り組み

法人組織の経営基盤を確立し将来ビジョンの実現に向けて、平成18年度に経営基盤づくりプロジェクトにおいて、「経営理念」を策定した。この経営理念を職員及び利用者・家族にも浸透を図るために、工房ヴィの1階パン等製造の作業場及び3階事務室にボード板で掲示すると共に、施設長が毎月1回開催する職員会で施設運営並びに利用者支援に関わる必要性や重点事項をその都度職員に伝えている。また、保護者連絡会でも理念を踏まえた支援の取り組みに努めていることを話しているが、重要案件等の対応手順に関して明文化するまでには至っていない。

カテゴリ2		
2 経営における社会的責任		
サブカテゴリ1		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している		評点( <b>A</b> )
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし		
評価項目2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている		評点( <b>A</b> )
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 透明性を高めるために、地域の人目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している	<input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし		
サブカテゴリ2		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		
評価項目1 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある		評点( <b>A</b> )
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている	<input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし		



<b>評価項目2</b> ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している <span style="float: right;">評点( <b>B</b> )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している	○非該当
○あり ●なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)	○非該当
●あり ○なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
<b>評価項目3</b> 地域の関係機関との連携を図っている <span style="float: right;">評点( <b>A</b> )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている	○非該当
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		
<b>カテゴリ2の講評</b>		
<b>職員倫理規定を踏まえるなかで利用者本位の支援に努めている</b> 工房ヴィの職員は、常に利用者の人権を尊重した支援に携わるための一環として、「職員倫理規定」並びに「行動指針」に則り、職員が守るべき法規範や倫理観を踏まえ、差別的な扱いをすることなく、プライバシーを保障するなど利用者の立場に立った支援に努めている。なお、法人傘下のグループホーム及びケアホームの入居者向けの「権利擁護ガイドライン」(個人の尊厳、プライバシー保護、自己決定権、財産権、市民権、不服の申し立て)を法人として作成しているが、働く場を最優先としている「工房ヴィ」では作成するまでには至っていない。		
<b>衛生上の観点からも作業ボランティアに頼らないことを基本としている「工房ヴィ」</b> 「工房ヴィ」は、パンの製造・喫茶等の食品の取り扱いを主力にしており、衛生上の観点を最も重要視している。工房では、真っ白な上着とキャップにマスク、黒のパンツと前掛け姿で作業を行っている。また、利用者との相性の関係から部外のボランティアに頼らないことを基本としているため、ボランティアに関する規定等は作成していないが、実習生受け入れ規定はあり、学校等からの依頼による実習生や研修生・教員免許取得希望者等の受け入れは行っている。旅行の付き添いや法人傘下のグループホームの行事については、ボランティア等に協力を得ている。		
<b>工房の喫茶店を通じ地域の溜まり場を目指すと共に地域のネットワーク化に努める</b> 工房店舗は幅員6メートル程の公道に接続しており、向い側にパン店もあり気軽に立ち寄れる環境である。町内会に会員加入しており、益暮れに交流を図っている。また特別支援学校の卒業生を招き、地域の敬老会を招待して食事会を行っている。なお、区の作業所連絡会には施設長が参加し、知的及び精神障害者を対象とした福祉作業所の集い(18施設)の会員として工房長が参加しており、地域と協働して運動会等の行事を行いネットワーク化に努めている。障害者週間中には、福祉センターで開催の障害者作品展にパン・焼き菓子等を出店し地域交流を図った。		



カテゴリ-3

3 利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

サブカテゴリ-1

利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している

評価項目1

利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)

評点( **A** )

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

【A+の取り組み】 あり なし

評価項目2

利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる

評点( **A** )

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

【A+の取り組み】 あり なし

評価項目3

地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している

評点( **A** )

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している	<input type="radio"/> 非該当

【A+の取り組み】 あり なし

### カテゴリー3の講評

#### 苦情解決対応に限らず、これまでも増して利用者意向を汲み上げる工夫に期待

工房ヴィでは、苦情解決に関する規程を整備しており、規程に基づき、重要事項事項説明書(就労移行支援事業・就労継続支援B型事業とも)に、施設内の苦情・相談窓口(サービス担当責任者を担当として、受付時間を8時～17時)の苦情処理手続きにより工房の運営に早急に対処することを紹介している。また、第三者委員3名の住所・電話番号並びに利用方法や仕組みを紹介している他、施設以外に都の社協の窓口も紹介している。重要事項事項説明書に限らず、利用者の意向や苦情をより一層汲み上げられるような仕組み作りが期待される。

#### 区の障害者施策懇談会等に参加し、経営環境の変化に敏感に対応するよう努めている

文書によるアンケート等で利用者意向を把握することが困難であるため、日常の仕事や会話の中で利用者の想いを汲み取りできる限り本人の意向に沿うような支援に努めている。なお、グループホームや就労支援事業等を展開している法人傘下の施設(工房ヴィ)として、施設長は、外部の諸情報を収集・分析し事業運営に反映させることが重要と考えており、区の障害者施策懇談会に参加している。一例として障害者施策を総合的、計画的に推進するための基本計画である障害者福祉計画や経営改革研修会等にも参加して検討を重ねている。

#### 職員が利用者特性を把握し、施設長は利用者意向のサービスへの反映を検討

福祉全体の動向に関する資料・情報の収集は特段行っていないが、その時々話題や事故等も含め職員会で話をしている。また、必要に応じ関連記事を複写して職員に配布するなどして社会情勢の共有化を図っている。利用者意向に関しては、旅行の際には行き先が希望に沿ったものか否か本人に確認し、それぞれの仕事については、利用者一人ひとりの特性を職員が把握しており、適性にあった仕事を提示している。施設長は、現状の支援を今後如何ように利用者意向を反映したものと、サービスの向上に繋げていくかを考えている。

カテゴリ4	
4 計画の策定と着実な実行	
サブカテゴリ1	
実践的な課題・計画策定に取り組んでいる	
評価項目1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している <span style="float: right;">評点( <b>B</b> )</span>	
評価	標準項目
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 年度単位の計画を策定している <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;"><input type="radio"/>あり <input checked="" type="radio"/>なし</span>	
評価項目2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している <span style="float: right;">評点( <b>B</b> )</span>	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
【A+の取り組み】 <span style="float: right;"><input type="radio"/>あり <input checked="" type="radio"/>なし</span>	

評価項目3  
着実な計画の実行に取り組んでいる

評点( B )

評価	標準項目	
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にしているなどの取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

【A+の取り組み】 あり なし

サブカテゴリー2

利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

評価項目1

利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

評点( A )

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	<input type="radio"/> 非該当

【A+の取り組み】 あり なし

カテゴリー4の講評

事業開始3年目に障害者自立支援法に基づく就労移行支援・就労継続支援B型事業に移行

毎年度、事業計画書及び収支予算計画書を策定し、事業計画に基づく執行実績状況としての事業報告書及び収支決算報告書を作成している。しかし、平成15年10月に通所授産施設として開設した「工房ヴィ」は、事業実施3年目にして、更なる支援の可能性を求めて、障害者自立支援法に基づく、就労移行支援事業と就労継続支援B型事業に移行した。短期間でこうした経営の進展を図ってきたこともあり、現状では、今後の福祉動向及び地域のニーズを踏まえた中長期計画を策定する段階には至ってない。

前年度の実績を踏まえて当該年度の重点事項を基本として作成された年度単位の事業計画

単年度事業計画の作成に際しては、施設長が工房長等職場の責任者を交えて、前年度の実績を踏まえて当該年度の重点事項を基本として原案を作成し、職員会議で説明・協議して「工房ヴィ」の「案」を法人の理事会で審議決定する手順を踏んでいる。「工房ヴィ」の事業計画は、就労移行と就労継続支援B型事業に関わるパン製造や喫茶室の運営等の5つの「作業職種」・パン製造や喫茶部門等の「活動内容」、「地域との交流」、その他「職員研修計画」の事項が主で、特にパン製造、喫茶及び利用者の適性に応じた新しい作業への参加を計画している。

進捗状況の検証等を計画的に行うためにも、達成度合いを計る指標の工夫を

法人の定款細則で理事長の専決権と、施設長及び事務長に対する小口現金の支出権限は委任されているが、職員の職務分掌及び施設長等の専決事項の定めはない。日常的な事業執行に際しては稟議書をもって全て理事長決裁で行われている。職員が各自の役割分担のなかで責任ある事業執行を行うためにも、達成度合いを計る指標を工夫することなども期待される。職員は、緊急時の連絡網及び災害発生時(地震・火災・風水害)の対応マニュアルの整備や感染症予防講習会を受講するなどして利用者の安全確保に努めている。

カテゴリー5

5 職員と組織の能力向上

サブカテゴリー1

事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる

評価項目1

事業所にとって必要な人材構成にしている

評点( **A** )

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

【A+の取り組み】 あり なし

評価項目2

職員の質の向上に取り組んでいる

評点( **B** )

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	3. 個人別の育成(研修)計画を踏まえ、OJTや研修を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している	<input type="radio"/> 非該当

【A+の取り組み】 あり なし

サブカテゴリ-2

職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる

評価項目1

職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる

評点( B )

評価	標準項目	
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

【A+の取り組み】 あり なし

評価項目2

職員のやる気向上に取り組んでいる

評点( B )

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

【A+の取り組み】 あり なし

カテゴリ-5の講評

人事考課を実施し職員の資質向上並びに業務改善に努めている

パン製造等食品を主力とした通所授産施設を平成15年10月に設立し、3年後の平成18年には、更なる支援の可能性を求めて障害者自立支援法に基づく、就労支援事業と就労継続支援B型事業に移行した。こうした短期間での事業形態の変遷にあって、法人の経営理念を實踐に反映して利用者支援の充実とサービスの質の向上を図るためには、職員の資質の向上が重要であるとして、人事制度の一つとして「人事考課」を実施して職員の自己評価に対する評価結果を面接を行いながらフィードバックし、自身の資質向上並びに業務改善に努めている。

事業の運営や支援の充実のために計画的な研修の実施を

事業計画では職員個別の研修計画は明示されていないが、別途、研修を計画している。職員を研修に参加させる場合には、勤務日程を調整してできるだけ限り受講させるようにしている。今年も工房ヴィと同種の事業所に交流研修のために職員を派遣している。しかし職員一人ひとりが支援に必要となる専門的知識の修得を図るための研修は行っていない。新体系へ移行した事業の運営及び支援の充実を図るためにも、研修内容を精査し、職員の個別課題に応じた専門研修等の計画的な実施が待たれる。

朝礼や毎月の職員会、研修報告会等を通じ職員のモチベーション向上に期待

施設長は、期待する職員像として、「利用者の思いを共感できる職員・自分の仕事にやりがいを感じられる職員」としている。そのためには職員一人ひとりが自ら率先して自己研鑽に励むことに期待を寄せている。毎日、朝礼での打ち合わせや毎月開催する職員会の場において、日頃の気づきや工夫、或いは日頃の考え等を必ず全職員に発言してもらうようにしている。また研修を受講した職員は研修報告書を作成し、職員会で発表することになっているが十分にできていないため、職員の士気を高めるためにも発表の機会の拡充が期待される。

7		カテゴリ7	
情報の保護・共有			
サブカテゴリ1			
情報の保護・共有に取り組んでいる			
評価項目1		事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる	
		評点( <b>B</b> )	
評価	標準項目		
○あり ●なし	1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している		○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・保管している		○非該当
○あり ●なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している		○非該当
【A+の取り組み】		○あり ●なし	
評価項目2		個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している	
		評点( <b>B</b> )	
評価	標準項目		
○あり ●なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している		○非該当
○あり ●なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している		○非該当
●あり ○なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している		○非該当
●あり ○なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている		○非該当
【A+の取り組み】		○あり ●なし	



## カテゴリー7の講評

### 「工房ヴィ利用に係る情報提供同意書」等により利用者・家族の個人情報保護

個人情報保護規定は策定していないが、就労移行支援事業契約書及び就労継続支援B型事業契約書においても、秘密保持に関し規定している。「工房ヴィ利用に係る情報提供同意書」をもって、利用者並びに家族の個人情報については、必要最小限の範囲で使用する事の同意を得ている。また、必要に応じ「情報提供同意書」で同意を得たもの限り情報提供をすることを定めている。なお、園広報への氏名写真等の掲載についても同意を得ている。特に園広報への同意書の文章は、利用者の特性に配慮して大きめの活字で漢字はルビふりとなっている。

### パソコン情報に限らず個人情報を保護する手立てを

利用者等の個人情報の保護については、学校等から依頼の実習生、研修生、義務教育教員免許取得希望者の実習を受入れる場合には、「実習生等受入規程」によって、利用者の個人情報及び法人情報を他に漏らさない旨の誓約書の提出を求めている。パソコン上の情報に関しては、職員給与関係の1台のパソコンを除き、他のパソコンはパスワードの設定がなく使用している。今後は、パソコン情報に限らず工房ヴィが保有する情報の管理を厳格にして、個人情報を保護する手立てが求められる。

カテゴリ-8	
8 カテゴリ1~7に関する活動成果	
サブカテゴリ-1	
前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリ1:「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリ2:「経営における社会的責任」 ・カテゴリ4:「計画の策定と着実な実行」	<input checked="" type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C
改善の成果	
<p>「生まれ育った家の近くに、働く場・生活する場を作る」ことを目指した法人の経営理念</p> <p>* 平成18年度経営基盤づくりプロジェクトで策定の「生まれ育った家の近くに、働く場・生活する場を作る」ことを目指した法人の経営理念にみられる「地域社会に開かれた福祉の発信地」としての信念に基づく運営をしている。</p> <p>* 衛生上の観点からも作業ボランティアに頼らないことを基本とするパン製造等の食品が「工房ヴィ」の主力となっている。</p> <p>* 区の作業所連絡会に施設長が参加、知的及び精神障害者を対象とした福祉作業所の集い(18施設)の会員として工房長が参加している。地域と協働して運動会等の行事を行い、地域のネットワーク化に努めている。今年度から障害者週間中の2日間、区の福祉センターで開催された障害者作品展に出店し、利用者はパン・焼き菓子等の販売を通して地域との交流を図った。</p> <p>* 平成15年10月に通所授産施設として開設した「工房ヴィ」は、事業実施3年目にして更なる支援の可能性を求めて、平成18年10月に障害者自立支援法に基づく就労移行支援事業と就労継続支援B型事業に移行した。</p>	
サブカテゴリ-2	
前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリ5:「職員と組織の能力向上」	<input type="radio"/> A+ <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C
改善の成果	
<p>経営基盤づくりプロジェクトにおいて、人事制度を構築し平成19年度から給与規定作成</p> <p>* 経営基盤づくりプロジェクトにおいて、平成19年度に給与規定を作成した。</p> <p>* 人事制度の一つとして「人事考課」を実施して、職員の自己評価に対する評価結果を面接を行いながらフィードバックし、自身の資質向上並びに業務改善に努めている。このことにより上司と職員間の意思疎通が更に良好となっている。</p>	
サブカテゴリ-3	
前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリ6:「サービス提供のプロセス」 ・カテゴリ7:「情報の保護・共有」	<input checked="" type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C
改善の成果	
<p>法人傘下の就労支援センターやグループホーム等の施設資源の連携による支援の充実</p> <p>* 就労移行支援事業の利用者の方々には、特に区の委託事業として行っている法人傘下の「就労支援センター北」の支援を受けて就労に向けた支援を行っている。このような取り組みの結果、昨年度は5名、平成20年度は1名が就労に結びついている。</p> <p>* 民間の製パン会社からのパン等の製造及び喫茶店のコーヒー等の販売業務を受託している「工房ヴィ」では、原材料の仕入れ等に係る費用負担を要せず、業務委託料としてパン等の焼成料及び喫茶販売手数料が入金され、安定した収入が確保されている。この収入源を基に、利用者には、「工賃規定」及び授産会計基準に基づき適正な工賃が年2回の賞与も含めて安定的に支給されている。</p>	

サブカテゴリ4

事業所の財政等において向上している

評価項目1

財政状態や収支バランスの改善に向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている

A+  A  B  C

改善の成果

開設当初から障害者自立支援法内の事業への移行を視野に入れた経営

\* 通所授産施設「工房ヴィ」を平成15年10月に開設した当初から、障害者自立支援法に基づく就労移行支援等、新体系への移行を視野に入れて財源の確保・蓄財を心がけ、経営効率を考えた職員体制をとってきた。なお、施設設備面においても建設5年で補修等の経費を要しておらず、健全な運営となっている。

\* パン製造関連及び喫茶部門は、民間のパン製造会社からの委託業務を行っているため、「工房ヴィ」において原材料の調達や製品の販売を要していない。このため、安定した収入が得られ、利用者への工賃配分も2万円以上を安定的に支払うことが可能となっている。

サブカテゴリ5

前年度と比べ、利用者満足や利用者意向の把握等の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、利用者満足や以下のカテゴリで評価される部分において改善傾向を示している

・カテゴリ3:「利用者意向や地域・事業環境などの把握と活用」

A+  A  B  C

改善の成果

区の障害者施策懇談会等に参加し、経営環境の変化に敏感に対応するよう努めている

\* グループホームや就労支援事業等を展開している法人傘下の施設「工房ヴィ」として、施設長は、外部の諸情報を収集・分析し事業運営に反映させることが重要と考えており、区の障害者施策懇談会に参加している。

## II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ-6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ-1		
1	サービス情報の提供	
評価項目1 利用者等に対してサービスの情報を提供している <span style="float: right;">評点( <b>A</b> )</span>		
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者が入手できる媒体で、利用者に事業所の情報を提供している <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし		
サブカテゴリ-1の講評		
<p><b>ホームページやパンフレット等を通じ地域に広く事業展開している「工房ヴィイ」を紹介</b></p> <p>社会福祉法人ドリームヴィイのホームページを開設しており、法人の経営理念、代表挨拶の他、全ての事業内容、役員体制、事業所の事業内容、所在地などを公開している。また、事業所独自のパンフレットでは、「工房ヴィイ」の就労移行支援事業、就労継続支援B型事業、法人傘下の「グループホーム・ケアホーム」、「地域生活支援事業」、更に行政の委託を受けた事業として「就労支援センター北」による区内の知的障害者等に対する就労相談事業を紹介している。その他に工房だよりを利用者向けに月1回発行している。</p> <p><b>情報提供同意書、写真掲載に同意を求めると個人情報の厳格な取り扱い</b></p> <p>情報提供同意書によって、事由、提供先、提供事項として個別支援計画、身上書(住所、連絡先、写真等)、個人資料、口頭による個人情報の使用(施設での様子を含む)、医療・保健的事項の同意を取っている。また、園広報への写真掲載が多いことから、独自に園広報紙への写真掲載の同意を求めている。しかしながら、利用者にとって必要となる利用の手引きなどの書類にルビをふっていないため、今後の整備が待たれる。</p> <p><b>見学や問い合わせだけに限らず、地域に広く「工房ヴィイ」を浸透させるための努力</b></p> <p>施設への問い合わせについては、電話等で日時を調整して、見学や説明を行っており、常に先方の都合を優先した対応をしている。近隣の都立特別支援学校に限らず、関係施設や保護者に対して柔軟且つ丁寧な対応をすることを信条としている。また、近隣の都立特別支援学校の保護者会などでは、社会福祉法人ドリームヴィイが何故に設立し、この地域で事業展開しているかについて、「工房ヴィイ」の事業内容と併せて説明するなどして、地域への周知に努めている。</p>		

サブカテゴリ-2

2 サービスの開始・終了時の対応

評価項目1

サービスの開始にあたり利用者等に説明し、同意を得ている

評点( A )

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を利用者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、利用者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、利用者や家族等の意向を確認し、記録化している	○非該当

【A+の取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している

評点( A )

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、利用者の支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、利用者の不安やストレスを軽減するよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援をしている	○非該当
●あり ○なし	4. サービスの終了時には、利用者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている	○非該当

【A+の取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリ-2の講評

実習からの入所等、契約にかかる一連の手続きを経て工房ヴィを利用

サービスの開始にあたっては、近隣の都立特別支援学校の学生時に工房ヴィでの実習を経て、利用者本人の希望を考慮し入所調整会議等を経て、工房ヴィへの利用が決定される。また、それ以外の場合には、施設の実習から職員会、理事会、理事長の決裁を通して入所する経緯となっている。手続きとしては、入所の説明から契約書、重要事項の説明書等で契約を取り交わし、併せて情報提供の同意書を取り交わしている。

工房ヴィ独自の「本人状況確認表」を基に状態把握とニーズに応じた支援

利用者の意向等は入所時に記録表で基本的な事項を確認している他、個別支援計画の作成にあたり、施設独自の本人状況確認表を基に利用者のニーズを整理し、状況を相対的に把握することに努めている。またアセスメントシートでニーズを整理して状況を把握した後、個別支援計画を作成する。なお、個別の不安やストレスの解消は、利用者特性等によりパニック時には、落ち着ける場所に移動するなど環境を変えたり、繰り返し行動の際は4回を3回にというように、直ぐになくすのではなく、できる所から徐々に対応していく支援をしている。

「就労支援センター北」の支援を受けて退所後にもきめ細かな支援体制

サービスの終了時には、利用者が事業所に解除を申し出て解除するとともに、施設からは「工房ヴィ」を退所にあたっての対応と今後の支援についての文書を取り交わす。契約書でうたっている「退所時の援助」により、退所後に区委託の「就労支援センター北」との連携を密にした支援、職員の会社訪問・家庭との電話連絡等での心理面での支援を行うなど、利用者本人に適した形での支援を文書で明確にしておき、退所後の対応はきめ細かいものとなっている。

## サブカテゴリ-3

## 3 個別状況に応じた計画策定・記録

## 評価項目1

定められた手順に従ってアセスメントを行い、利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点( A )

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者一人ひとりのニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	<input type="radio"/> 非該当

【A+の取り組み】 あり なし

## 評価項目2

利用者等の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している

評点( A )

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画は、利用者の希望を尊重して作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画を利用者にわかりやすく説明し、同意を得ている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 計画を緊急に変更する場合のしきみを整備している	<input type="radio"/> 非該当

【A+の取り組み】 あり なし

## 評価項目3

利用者に関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点( A )

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしきみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果利用者の状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当

【A+の取り組み】 あり なし

<b>評価項目4</b> 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点 ( <b>A</b> )
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、利用者に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	<input type="radio"/> 非該当
<b>【A+の取り組み】</b> <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし		

サブカテゴリ3の講評

**利用者状況を探るための本人状況確認表とアセスメントシートの内容**

利用者の心身の状況や生活状況の把握については、施設独自の「本人状況確認表」に基づき「暮らす」「はたらく」「人との関わり」「個人の特性」「特別に必要な支援・ご本人の思い」を中心に状況を探り、アセスメントシートに基づき日常生活での仕事の自発性、準備と片付け、巧緻性、労働福祉的知識、家族の理解、交通機関の利用、起床、生活リズム、食事、働く場での行動態度では一般就労への意欲、作業意欲、就労能力の自覚、挨拶、会話、言葉使い、非言語的コミュニケーション等を記録し、把握の上、個別支援計画を立てている。

**利用者・家族の意向を尊重した個別支援計画書の作成**

個別支援計画の作成にあたっては、年1回の面接の時に、本人、保護者、担当職員、工房長、施設長で面談して利用者のニーズを探り、就労移行支援事業、就労継続支援B型事業とそれぞれにあった計画を作成している。個別支援計画は、職員、工房長、サービス管理責任者、施設長の集まる職員会で確認後に実施に移しており、計画の見直しも6ヶ月毎に行われている。また、緊急に計画の変更や見直しが必要となった時は、職員会で確認している。

**記録の共有と利用者状況把握の際の配慮**

日々の活動の記録は、ケース記録に記録され、パソコンのデータの中にケース記録として保存されており、いつでも、誰でも記録に目を通すことが可能である。記録類はパソコン内のデータを基に職員全員に共有化が図られている。また、ファイルは、個人用ファイル(個人用の記録)、法人用ファイル(契約書、重要事項説明書、愛の手帳、受給者証コピー)と分けて管理・共有している。なお、職員の朝礼は、早番と遅番が出勤して利用者の情報が集約されるよう10時からとなっており、時間的な配慮がされている。

サブカテゴリ5

**5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重**

<b>評価項目1</b> 利用者のプライバシー保護を徹底している		評点 ( <b>A</b> )
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者に関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、利用者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 日常の支援の中で、利用者のプライバシーに配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者の羞恥心に配慮した支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<b>【A+の取り組み】</b> <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし		



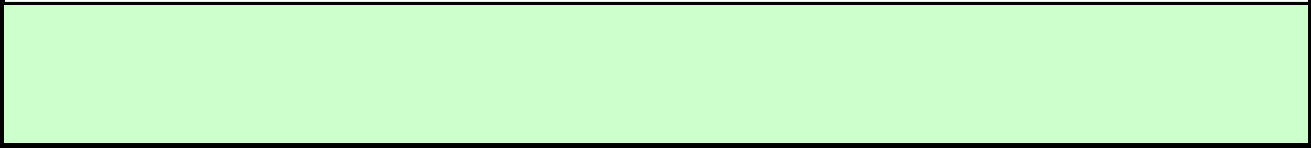
評価項目2

サービスの実施にあたり、利用者の権利を守り、個人の意思を尊重している

評点( **A** )

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の支援にあたっては、個人の意思を尊重している(利用者が「ノー」と言える機会を設けている)	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 虐待被害にあった利用者がある場合には、関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用者一人ひとりの価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当

【A+の取り組み】 あり なし



サブカテゴリ5の講評

個人情報保護における利用者の同意

個人情報保護規定は策定していないが、就労移行支援事業契約書・就労継続支援B型事業契約書においても、秘密保持に関して規定している。「工房ヴィ利用に係る情報提供同意書」(ルビ入り)をもって、利用者並びに家族の個人情報については、必要最小限の範囲で使用することの同意を得ている。また、園広報への氏名写真等の掲載のための同意書(ルビ入り)を取り、個人の情報を保護している。

身近の支援から会話に至るまで個人の尊重を配慮しているものの呼称にも気配りを

利用者への羞恥心の配慮では、身近支援での介護や処置時は、利用者の心理状態、不安な状態に配慮して、気持ち、心を大切にしつつ、速やかに対応している。また、個人の尊重では、職員は利用者・職員の前では、他の利用者の話をしないことやプライベートにおいても、何時、如何なる場所で不特定な人々が聞いてないとも限らないため、私生活の部分でも十分に留意すること、敬称の使い方においても留意することに努めている。しかしながら、利用者への敬称で愛称やニックネームを使用しているケースがみられるため、呼称への気配りも期待したい。

法人傘下のグループホーム等では「権利擁護ガイドライン」を作成し利用者の権利を尊重

「工房ヴィ」の就労移行支援事業、就労継続支援B型事業では、虐待の被害にあった利用者は現時点ではないが、同一法人傘下の共同生活援助のグループホームでは、ネグレクトの利用者を受入れている。グループホームにおいては「権利擁護ガイドライン」も作成しており、「工房ヴィ」でも対応が可能となっている。

サブカテゴリ-6

6 事業所業務の標準化

評価項目1

手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点( **B** )

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	3. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	4. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/> 非該当

【A+の取り組み】 あり なし

評価項目2

サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点( **B** )

評価	標準項目	
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や利用者等からの意見や提案を反映している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

【A+の取り組み】 あり なし

評価項目3

さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

評点( **A** )

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員全員が、利用者の安全性に配慮した支援ができるようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	<input type="radio"/> 非該当

【A+の取り組み】 あり なし

サブカテゴリ6の講評

事業所の支援方針に基づき支援マニュアルの点検を

業務のマニュアルは職員全員に配っている。特徴的なことは、インフルエンザ、ノロウイルス等の感染症対策のための衛生管理の徹底や、「震災等の非常災害時の対応について」「災害発生時における対応マニュアル・地震、火災、風水害」「緊急時の対応(連絡体制)」等があり、地震警戒宣言発令の場合や火災発生の場合の連絡、引き渡し、行事の場合等がきめ細かく整備されている。現状の利用者支援マニュアルが事業所の支援方針を十分に反映しているとは言えないため、再点検が期待される。

様々な意向、意見の反映と事例を基にした改善

個別支援計画の見直しは6ヶ月毎に行われており、個別の面談で本人や保護者から意向、意見を聞き、職員会での検討結果などを考慮して作成にあっている。職員会では、一人ずつ意見が言えるよう配慮している。また、事故報告書、ヒヤリハットで事故や教訓をサービスの向上に繋げていき、例えば、緊急的な事態が起こった時は誰がどういう形で連絡をするのか、態勢を整備した。

職員の資質向上を図るために工房ヴィと同種の先駆的施設への現場研修

職員自らが勉強し、自ら考えられるように取り組んでいる。工房は日中の活動のため、職員は、研修参加の機会をなかなか得られていない。管理者としては、可能な限り、工房ヴィと同様な施設の見学や交流を行いたいと考えている。最近の研修では、全国的に先駆的な取り組みで実績のある都外の社会福祉法人の見学研修に数名が参加し、パンやクッキー作りを現場研修し、職員と交流を図った。

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

1	評価項目1 個別の支援計画に基づいて自立(自律)生活が営めるよう支援している		評点( <b>B</b> )
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 個別の支援計画に基づいて支援を行っている	○非該当
	●あり ○なし	2. 利用者の特性に応じて、コミュニケーションのとり方を工夫している	○非該当
	○あり ●なし	3. 自立生活に必要なさまざまな情報を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 必要に応じて対人関係のアドバイス等を行っている	○非該当	
【A+の取り組み】		○あり ●なし	
評価項目1の講評			
<p><b>法人傘下の「就労支援センター北」の支援を受けて就労に向けた支援</b></p> <p>就労移行支援事業の利用者には、特に区の委託事業として行っている法人傘下の「就労支援センター北」の支援を受けて、就労に向けた支援を行っている。就労支援は、個人面談をして、就労を目指す方の工房ヴィでの仕事ぶりをみてもらった後に、会社での実習経験を通して就労に繋げることを目指し取り組んでいる。就労移行支援事業契約書別紙にも「就労支援センター北」の支援を受けて就労支援を行うことを明示している。就労支援センターは工房ヴィと同一の建物内に事業所を構えており、緊密な連携や情報交換が可能となっている。</p> <p><b>利用者の意向・意見を把握し特性に応じた支援を基本とした取り組み</b></p> <p>文書によるアンケート等で利用者意向の把握は困難であるため、職員は、日常の仕事や会話の中で利用者の意向や思いを汲み取るように支援に努めている。職員間で利用者の特性の共有化を図り、パニック時の対応などを統一している。例えば、利用者の障害特性で反復動作を繰り返している場合などは、繰り返す回数を4回を3回に減らしたり、お茶の時間と杯数を決めておき、それ以上は止めたりして、極力利用者を受入れ、容認している。また、社会的に危険なこと(飛び出しなど)は改善させていくというスタンスで支援をしている。</p> <p><b>利用者の自己実現に向けて一人ひとりの方向性の実現に向けた支援</b></p> <p>工房ヴィには現在20人の利用者が在籍している。利用者の自己実現も20通りあり、個別支援計画に基づき利用者一人ひとりの自立、挨拶やマナー、遅刻へのアドバイス、対人関係等に気をつけている。旅行が働くこと目標である利用者もあり、利用者個々の課題や工房全体としての社会生活を検証し、工房ヴィの役割は何なのか、ここで何ができてどう視野を広げていくか、そこには職員がどう関わるべきか、20人のそれぞれの自己実現に向けて取り組んでいる。</p>			

2	<b>評価項目2</b> 個別の支援計画に基づいて就労・日中活動等に関するさまざまな支援を行っている		評点 ( <b>A+</b> )																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <input checked="" type="radio"/>あり <input type="radio"/>なし         </td> <td>1. 授産活動のメニュー等は、利用者の希望や特性により選択できるようにしている</td> <td><input type="radio"/>非該当</td> </tr> <tr> <td> <input checked="" type="radio"/>あり <input type="radio"/>なし         </td> <td>2. 利用者が活動しやすい環境を整えている</td> <td><input type="radio"/>非該当</td> </tr> <tr> <td> <input checked="" type="radio"/>あり <input type="radio"/>なし         </td> <td>3. 利用者一人ひとりのニーズに応じたその人らしさが発揮できる活動を用意している</td> <td><input type="radio"/>非該当</td> </tr> <tr> <td> <input checked="" type="radio"/>あり <input type="radio"/>なし         </td> <td>4. 工賃は利用者との合意に基づいて支給している</td> <td><input type="radio"/>非該当</td> </tr> <tr> <td> <input checked="" type="radio"/>あり <input type="radio"/>なし         </td> <td>5. 利用者の働く意欲を盛り立てる取り組みを行っている</td> <td><input type="radio"/>非該当</td> </tr> <tr> <td> <input checked="" type="radio"/>あり <input type="radio"/>なし         </td> <td>6. 就労可能な利用者には、就労に向けた相談や具体的な支援を行っている</td> <td><input type="radio"/>非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 授産活動のメニュー等は、利用者の希望や特性により選択できるようにしている	<input type="radio"/> 非該当	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者が活動しやすい環境を整えている	<input type="radio"/> 非該当	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者一人ひとりのニーズに応じたその人らしさが発揮できる活動を用意している	<input type="radio"/> 非該当	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 工賃は利用者との合意に基づいて支給している	<input type="radio"/> 非該当	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 利用者の働く意欲を盛り立てる取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 就労可能な利用者には、就労に向けた相談や具体的な支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当	<b>【A+の取り組み】</b> <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし
評価	標準項目																						
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 授産活動のメニュー等は、利用者の希望や特性により選択できるようにしている	<input type="radio"/> 非該当																					
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者が活動しやすい環境を整えている	<input type="radio"/> 非該当																					
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者一人ひとりのニーズに応じたその人らしさが発揮できる活動を用意している	<input type="radio"/> 非該当																					
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 工賃は利用者との合意に基づいて支給している	<input type="radio"/> 非該当																					
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 利用者の働く意欲を盛り立てる取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当																					
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 就労可能な利用者には、就労に向けた相談や具体的な支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当																					
<p>「工房ヴィ」は法人傘下の「就労支援センター北」との連携による就労支援に取り組んだり、法人傘下以外の関連会社からの委託によるパン焼成業務及び喫茶店のコーヒー販売等の業務を行っている。区の委託事業として知的障害者の就労支援を行っている「就労支援センター北」は工房ヴィの建物内にあり、センターの責任者は、日常的にパン製造や配達等日常的に利用者の働く姿のみに限らず、生活の状態を含め全般的に把握しており、就労支援の相談時に反映させることができている。こうした結果、昨年度は5名、平成20年度は1名が就労に結びついた。</p>																							
<b>評価項目2の講評</b>																							
<p><b>就労活動の授産メニューは利用者に応じて多岐にわたっている</b></p> <p>就労移行、就労継続支援B型の利用者の仕事としては、主にパンに関する作業である「パンの袋詰め」「袋とじ」「パンの販売」「宅配」「パン焼きの鉄板の清掃」「仕事場の清掃」などがあり、立ち仕事である。これらの作業に向かない人には、軽作業で座って作業できる「封入詰め」「ラベル貼り」などの作業も提供しており、利用者の希望や意向を踏まえて、その方にあった作業の提供に努めている。</p> <p><b>安定した授産収入と安定した工賃の仕組み</b></p> <p>民間製パン会社からパン等の製造及び喫茶店のコーヒー等の販売業務を受託している「工房ヴィ」では、原材料の仕入れ等に係る費用を負担せず、業務委託料としてのパン等の焼成料及び喫茶販売手数料が安定した収入として確保されている。また、工賃は工賃規定で規定されており、公平、平等な内容となっている。基本時給の工賃も東京都の最低賃金の約1/3である240円を基本給としている。施設外で特定の会社で働き、明らかに通常とは異なる勤務を依頼した場合の特別業務には、特別業務手当が支払われており、利用者に了解されている。</p> <p><b>法人グループ全体で自立・就労に向けた取り組み</b></p> <p>法人傘下の地域に点在するグループホーム、ケアホーム並びに区の委託として「就労支援センター北」(知的的就労支援センターとしては区内に1か所)との連携、関係を強化して就労に備えている。工房ヴィの建物内にある「就労支援センター北」の管理者は、工房のサービス提供管理責任者でもあり、利用者の特性、個性の情報を入手しやすい関係にある。平成19年度は5名、平成20年度は1名の利用者が就労に結びついた。</p>																							
3	<b>評価項目3</b> 栄養のバランスを考慮したうえでおいしい食事を楽しく食べられるよう工夫している		評点 ( <b>A</b> )																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <input checked="" type="radio"/>あり <input type="radio"/>なし         </td> <td>1. 利用者の希望や職員の意見を反映し、バラエティーに富んだ飽きのこない食事を提供している</td> <td><input type="radio"/>非該当</td> </tr> <tr> <td> <input checked="" type="radio"/>あり <input type="radio"/>なし         </td> <td>2. 利用者の状態やペースに合わせて食事がとれるよう、必要な支援を行っている</td> <td><input type="radio"/>非該当</td> </tr> <tr> <td> <input checked="" type="radio"/>あり <input type="radio"/>なし         </td> <td>3. 食事時間が楽しいひとときとなるよう環境を整えている</td> <td><input type="radio"/>非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の希望や職員の意見を反映し、バラエティーに富んだ飽きのこない食事を提供している	<input type="radio"/> 非該当	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の状態やペースに合わせて食事がとれるよう、必要な支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 食事時間が楽しいひとときとなるよう環境を整えている	<input type="radio"/> 非該当	<b>【A+の取り組み】</b> <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし									
評価	標準項目																						
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の希望や職員の意見を反映し、バラエティーに富んだ飽きのこない食事を提供している	<input type="radio"/> 非該当																					
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の状態やペースに合わせて食事がとれるよう、必要な支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当																					
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 食事時間が楽しいひとときとなるよう環境を整えている	<input type="radio"/> 非該当																					

評価項目3の講評

自分たちの焼いたパンやお楽しみ料理と季節のメニュー等で楽しい昼食

お楽しみ料理があり世界各国の料理を楽しもうと、メキシコ、ポルトガルなどの料理を提供したり、季節では、節分でお豆を出したり、端午の節句、新年のお餅など献立の中に季節を感じさせる料理や利用者から希望を聞いてメニューに反映させるなどしている。また、パンの焼成に関わっているため、食事にパンが多く出され、利用者は自分たちの焼いたパンをお昼に味わうことができるのも「工房ヴィ」の特色の一つともなっている。

明るく、衛生的且つ機能的な食堂で美味しい食事

利用者の食堂は1階と3階の作業場の間の2階に設置されており、食堂だけではなく利用者の休憩室としても利用されており、利用者は多目的に利用している。また、厨房は食堂と一体となっており調理作業中はガラス戸で覆われているが、食事の時は、ガラス戸を全面開放し、食堂・厨房を一体的に利用している。食事は、職員も一緒に摂っており、利用者にとってもよきコミュニケーションを図る一時でもある。

楽しい雰囲気作りと食事作りから社会性、自立を考える

食堂での食事は職員である生活支援員、職業指導員、工房長、管理者はもとより、事務職員も全て一緒に食事を摂り、利用者には身近に職員を感じることができ、コミュニケーションの進展も図っている。また、利用者は、厨房の栄養士、調理員ともオープンスペースで話ができ、密接な関係を保っている。また、食材の買い出しの一部は、利用者が職員と一緒に近隣のスーパーなどで購入しており、地域との連携、利用者の社会性、自立に一役買っている。

評価項目4

身の回りの支援に関しては、利用者の立場を考えてサービスを行っている

評点( A )

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の状態やペースに合わせて、日常生活上の必要な支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 必要に応じて、身の回りのことは自分で行えるよう働きかけている	○非該当

【A+の取り組み】 ○あり ●なし

評価項目4の講評

利用者の状態やペースに合わせて出勤時間の変更や作業配置の変更等の柔軟な対応

作業種目の選定にあたり、利用者の状態やペースに合わせて、年齢が高くなり出勤に時間がかかるようになってきた方には、勤務を遅番に繰り下げるなどして出勤しやすいようにしたり、作業種目の中で作業過程を増し、例えば、パンを袋に入れる、容器を洗う作業に変えたり、また、パン関連の作業でなく軽作業に変更してみるなど柔軟且つ臨機応変に対応している。或いは、昼食の食材の買い出しに近隣のスーパーに買い物に行く利用者を決めるなど、個別に応じた支援をしている。

社会的自立を目指して身の回りのことは自分自身で行えるように支援

利用者が、例えば、ロッカーの管理、開け閉めの鍵の管理、ユニホームへの着替え、エプロンやマスクを鏡で確認するなど、身の回りのことはできるだけ自分自身で管理し、実行できるようにすることを支援の基本にしている。また、衛生観念として爪や髪の手入れの確認や館内の清掃においても、シュレッダーの紙を撒きそれを掃くことで全体をきれいにするなど、利用者自身が考えて行えるように工夫している。休み時間には自分のお金でペットボトルを購入するなど金銭面でも自己管理ができるように支援に努めている。



5	<b>評価項目5</b> 利用者の健康を維持するための支援を行っている		評点 ( <b>A</b> )
	<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 健康状態に関して、利用者の相談に応じ、必要に応じて利用者や家族に説明をしている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 必要に応じて、通院や服薬等に対する助言や支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 服薬管理は誤りがないようチェック体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用者の体調変化(発作等の急変を含む)に速やかに対応できる体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
<b>【A+の取り組み】</b>		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
<b>評価項目5の講評</b>			
<p><b>適切な情報交換と利用者の個別に応じた健康管理</b></p> <p>利用者の早番と遅番の情報が把握できる午前10時から、支援員が連絡帳を基にして利用者の体調の様子や発熱などの健康状態への配慮の伝達のために「朝のミーティング」が行われ、情報交換をしている。現在は昼食時に薬を服薬する方はいないが、対応マニュアルの中でその取り扱い方が明示されている。服薬についても、連絡帳で服薬の依頼があった時には、朝のミーティングで報告され、担当職員が服薬を最終的に確認している。</p> <p><b>施設負担での綿密な定期検診・健康診断</b></p> <p>月1回嘱託医による健康相談を実施している。また、年1回行う定期の健康診断では、施設経費で民間総合病院にて診察、問診、身長、体重、BMI、視力、聴力、胸部レントゲン、尿検査(蛋白・糖・潜血)、血液検査、大腸ガン検査を実施している。また、その結果については、保護者にも検査結果を知らせ、家庭での健康管理にも配慮してもらい、利用者が毎日元気で通所できることを願っている。</p>			
6	<b>評価項目6</b> 利用者の自主性を尊重し、日常生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている		評点 ( <b>A</b> )
	<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 行事やレクリエーションのプログラムは、利用者の特性や嗜好を考慮し、多様な体験ができるようにしている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 室内は、採光、換気、清潔性など居心地のよい環境となるようにしている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 日常生活に関するきまりごとについては、利用者等の意見を参考にして見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用者同士が意見を言う機会があり、その意見等を施設運営に反映できるようしくみを整えている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 行事やイベントの企画・準備は利用者も参加して行っている	<input type="radio"/> 非該当
<b>【A+の取り組み】</b>		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	



評価項目6の講評

多種多様な行事のメニュー

行事、レクリエーションは、初詣のお楽しみ会、一泊旅行(保護者会で積み立て)、近隣のカラオケ店でのカラオケ大会、運動会(区で500人参加、玉転がし、綱引き、スプーンレース、徒競走などあり)、ボーリング大会、工房ヴィでのクリスマス会など多彩な催し物を用意して、利用者に合った参加を心掛けている。

福祉センターでの障害者週間の期間中にパンの販売を通じ地域住民と交流

障害者週間(12月3日～9日)中の2日間に区の障害者作品展が福祉センターで開催された。工房ヴィでは、利用者は作品を制作していないため、パンの販売で参加した。利用者は、30種類のパンを袋に入れ、値段を付け、パン・焼き菓子・ケーキを車に積んで運び、センターでの販売を準備し、午後からパンの販売を行った。大きな声で「いらっしやいませ」と言い販売を一生懸命行い、地域住民との交流を図る良い機会ともなった。

利用者の何気ない意見が喫茶店に反映

利用者からの意見の反映については、利用者が喫茶室に「メニューがない」ことに気づいたこと、日課の一部としてのタイムレコーダーへの打刻、室温が寒い時の暖房使用への提案など、利用者が意見を言いやすい環境を作り出している。一方で、多くの利用者がその特性から文書によるアンケートで意向を把握することが困難であるため、サービスの向上に利用者意向を反映させていくことが今後の課題となっている。

評価項目7

施設と家族等との交流・連携を図っている

評点( A )

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 家族等との交流・連携に際して、利用者本人の意思を確認し、その意向に基づいた対応をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の日常の様子や施設の現況を家族等へ知らせる手段を整えている	○非該当
●あり ○なし	3. 必要に応じて、家族等への情報提供や支援をしている	○非該当

【A+の取り組み】 ○あり ●なし

評価項目7の講評

保護者連絡会を年5回開催し、保護者と密接に連絡をとっている

保護者連絡会(施設の報告の連絡会後に開催)を年間5回開催(出席者は12名から15名程)して、法人のことや工房ヴィの事業計画・報告の連絡、法人・事業所の考え方などの理解の浸透を図っている。その他にも、連絡帳でのやり取り、個別支援計画作成時の個人面談での立ち会い、工房ヴィだより、電話での連絡・報告などにより保護者・ご家族との交流・連携に努めている。

都立特別支援学校卒業生の会との緊密な連携

工房ヴィの成り立ちは「都立養護学校の卒業生を応援する会 ヴイの会」が発端であり、有限会社ヴィ王子から社会福祉法人ドリームヴィの一つとして通所の授産施設が開設され、現在は就労移行と就労継続支援B型の事業を展開している。そのため、都立特別支援学校との繋がりは緊密で関係も深い。

「工房だより」は保護者・家族向けに提供

工房だよりは、保護者、家族向けの機関誌であり、その内容は、工房ヴィでの出来事のトピックス(近況のニュース)的な事柄を掲載している。施設は、保護者、家族との関係の強化、緊密化を図っている。

8	<b>評価項目8</b> 地域との連携のもとに利用者の生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点( <b>B</b> )
	<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	1. 地域の情報を収集し、利用者の状況に応じて提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 必要に応じて、利用者が地域の資源を利用し、多様な体験ができるよう支援している	<input type="radio"/> 非該当	
<b>【A+の取り組み】</b>		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
<b>評価項目8の講評</b>			
<p><b>地域への積極的な参加と地域への情報発信</b></p> <p>障害者週間中(12月3日～9日)の12月6日・7日の2日間に北区障害者作品展が福祉センターで開催された。工房ヴィでは、利用者は作品を制作してないため、パンの販売で参加した。利用者は、天板・工場の掃除、30種類のパンの袋詰め、値段を付け、会場での販売準備のための設営などを行い、午後からパンの販売を行った。地域の作品展、運動会へは工夫して参加している。福祉大相撲には利用者5名と保護者が参加した。また、施設長は、各種会合、区の連絡会、都立特別支援学校での保護者会等でヴィの会の説明をしている。</p> <p><b>食材の購入も地域資源を活用</b></p> <p>地域資源の活用では、週2回利用者に職員と一緒に食材の買い物を手伝ってもらっている。他にも、行事、レクリエーション、地域での販売等では、地域のカラオケ店、ボーリング場、初詣の神社、地域での運動会の参加、バザーでの販売員としての参加や日々のパンの運搬の付き添い、販売要員などお客さんとのコミュニケーションもあり、積極的な交流がなされており、地域資源を積極的に活用している。</p>			

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	「生まれ育った家の近くに、働く場・生活する場を作る」ことを目指した法人の経営理念
	内容	特別支援学校を卒業した方たちが、地域で働き、生きいきと活躍できることを目標としている、社会福祉法人ドリームブイは、「私たちは、地域社会に開かれた福祉の発信地として、障害のある人もない人も、共に生きていく社会の創造を目指します。一つ、障害のある人の人格と個性を尊重します。一つ、障害のある人が安心して豊かな地域社会を営めるよう支援します。一つ、障害のある人の喜びや悲しみを共感できる職員であることに努めます」を経営理念として、「生まれ育った家の近くに、働く場・生活する場を作る」ことを目指して事業を展開している
2	タイトル	就労を目指した日中活動と居住支援の連鎖で生きいきと活躍できる社会の実現を目指す
	内容	経営理念を実践に移すための施策として、平成15年にパンや焼き菓子製造等をメインにした通所授産施設「工房ヴィ」を設立した。更に利用者支援の可能性を求めて、平成18年に就労移行支援事業と就労継続支援B型事業に移行し、工房を拠点として現在20名の利用者が働いている。なお、法人傘下の地域に点在するグループホーム及びケアホーム、行政からの委託としての「就労支援事業」、工房ヴィの主力となっている製パン会社からの委託による焼成業務などを連鎖して運営することによって、利用者が社会で活躍できる場となることを目指している。
3	タイトル	民間の製パン会社からのパン製造等の委託により、安定した収入の結果、安定した工賃の支給
	内容	都立の特別支援学校の卒業生が多く働いている民間の製パン会社よりパン等の製造及び喫茶店のコーヒー等の販売業務を受託している「工房ヴィ」では、原材料の仕入れに係る費用負担を要せず、業務委託料としてのパン等の焼成料及び喫茶販売手数料が安定した収入として確保されている。この収入源を基に、利用者には、「工賃規定」及び授産会計基準に基づき適正な工賃が年2回の賞与も含めて安定的に支給されている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	苦情解決対応に限らず、これまでも増して利用者意向を汲み上げる工夫に期待
	内容	工房ヴィでは、苦情解決に関する規程を整備しており、規程に基づき、重要事項説明書(就労移行支援事業・就労継続支援B型事業とも)に、施設内の苦情・相談窓口(サービス担当責任者を担当として、受付時間を8時～17時)の苦情処理手続きにより工房の運営に早急に対処することを紹介している。また、第三者委員3名の住所・電話番号並びに利用方法や仕組みを紹介している他、施設以外に都社協の窓口も紹介している。重要事項説明書に限らず、利用者の意向や苦情をより一層汲み上げられるような仕組み作りが期待される。
2	タイトル	事業の運営や支援の充実のために計画的な研修の実施を
	内容	事業計画では職員個別の研修計画は明示されていないが、別途、研修を計画している。職員を研修に参加させる場合には、勤務日程を調整してできるだけ受講させるようにしている。今年も工房ヴィと同種の事業所に交流研修のために職員を派遣している。しかし職員一人ひとりが支援に必要な専門的知識の修得を図るための研修は行っていない。新体系へ移行した事業の運営及び支援の充実を図るためにも、研修内容を精査し、職員の個別課題に応じた専門研修等の計画的な実施が待たれる。
3	タイトル	パソコン情報に限らず個人情報保護の手立てを
	内容	利用者等の個人情報の保護については、学校等から依頼の実習生、研修生、義務教育教員免許取得希望者の実習を受入れる場合には、「実習生等受入規程」によって、利用者の個人情報及び法人情報を他に漏らさない旨の誓約書の提出を求めている。パソコン上の情報に関しては、職員給与関係の1台のパソコンを除き、他のパソコンはパスワードの設定がなく使用している。今後は、パソコン情報に限らず工房ヴィが保有する情報の管理を厳格にして、個人情報を保護する手立てが求められる。